

中路教授

中根教授

早狩教授

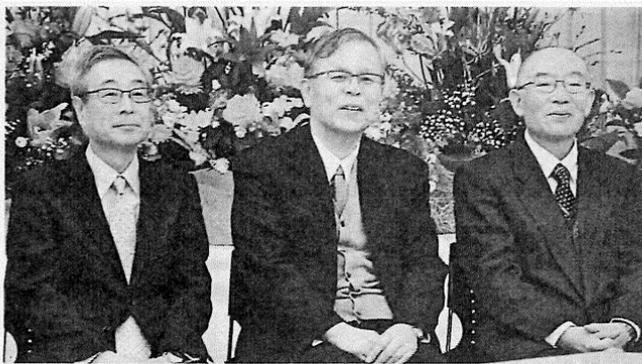
最終講義 研究振り返る

弘大大学院
医学研究科

弘前

今春、弘前大学大学院医学研究科を定年退職する教

授が13日、同大で最終講義を行った。本県の短命県返上に精神的に取り組む社会学の中路重之教授や、弘大付属図書館



最終講義で研究生活を振り返った（左から）中根教授、中路教授、早狩教授

「健康づくりは地方創生の答えの一つ。今後もプライドを持って進んでいきたい」と述べ、講演を締めくくった。

長で感染生体防御学の中根明夫教授、薬剤学の早狩誠教授の3人が研究生活を振り返った。

このうち前医学部長の中路教授は「弘前大学での四十年」と題して講演した。産学官や市民、学校、事業所などを巻き込んだ健康づくりの歩みを振り返ったほか「若木健康増進プロジェクト」の大規模健診で得た腸内細菌や口腔内細菌に関する研究成果などを紹介。社会医学の重要性に触れ

「健康づくりは地方創生の答えの一つ。今後もプライドを持って進んでいきたい」と述べ、講演を締めくくった。

定年は65歳。中根教授は「細菌と多くの方々に支えられて」、早狩教授は「安全・適正な薬物療法への貢献」の演題で、ユーモアも交えながら講演した。同大の基礎大講堂には約280人が詰め掛け、講義を終えて花束を受け取る各教授に盛大な拍手が送られた。

春には中根、中路の両教授は同大の特任教授に就任。早狩教授は、京都大薬学部
の非常勤研究員となる見込み。
(鎌田秀人)